

KOBE-DU LIBRARY ARCHIVE

ビブリオテイク・レクチャーの記録

(2010－2013)

概要

- ビブリオテイク・レクチャーについて

貴重・希少資料あるいは、特色的な文献にまつわる講義を図書館内で行う試み。

研究、または教育用として、学科からの高額または特殊資料購入要望に対し、図書館委員会で審議の上採否を決定し、採用された学科は、当該文献に関するレクチャーを必ず開催することが義務付けられた。

貴重書購入に対する予算措置の終了とともに、この試みは終了となったが、特殊資料の講義・演習での活用は現在も行われている。

第1回(2010.06.17) 宮本隆司教授

写真家ロバート・フランクに密着

～コンタクトシートで見るロバート・フランクの写真集『アメリカ人』～

- 6月17日（木）に図書館AV室にて第1回ビブリオテクレクチャーを開催しました。



約30名弱の方々にご参加いただきました。

- 写真家ロバート・フランクの写真集『アメリカ人』の中の作品**83**枚を紹介。その写真が全てライカを使用して撮られたものであること、時代は小型カメラで撮影する絶頂期であったこと、また、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ウィリアム・クライン、ウォーカー・エヴァンス、森山大道らとの作品比較をしながら、興味深いお話が盛りだくさんの1時間でした。



- 講義の後は、場所を閲覧室に移して、30分程度、当日のみ展示していた図書を宮本教授の解説のもと、参加者が手袋をして、実物を手に取りながら閲覧しました。



- 最後は図書館会議室で懇親会を行い、お開きとなりました。懇親会では宮本教授を囲んで、レクチャーの感想を言い合ったり、レクチャー以外のことを質問したりと楽しいひと時を過ごしました。宮本教授のここだけの秘密の話も聞くことができ、参加した方々はラッキーだったのではないのでしょうか。



お忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。

第2回(2010.07.22)鈴木明教授

カップマルタンの休暇小屋のひみつ
～ル・コルビュジェの図面アーカイブからわかること～

- 7月22日（木）に図書館AV室にて第2回ビブリオテイクレクチャーを開催しました。



約20名弱の方々にご参加いただきました。

- ル・コルビュジエが最後に住んだというカップマルタンの休暇小屋。なぜ、彼がこの小屋にこだわるのか、その魅力と秘密について解説いただいた1時間でした。

アーカイブの愉しみについても、『**Le Corbusier plans**』（DVD-ROM）【※1】に記載の図面を実際に見ながら解説いただきました。

レクチャー終了後、図書館会議室で懇親会を開催しました。短い時間ではありましたが、笑い声の絶えない、和やかムードの懇親会でした。

暑い中またお忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。

※1 パリ、ル・コルビュジエ財団に所蔵されている全ての建築作品の設計資料、これまで公開されていなかった図面を含む**35,000**点を**DVD**に収録、刊行したものの。

第3回(2010.11.17)貴島正秋教授

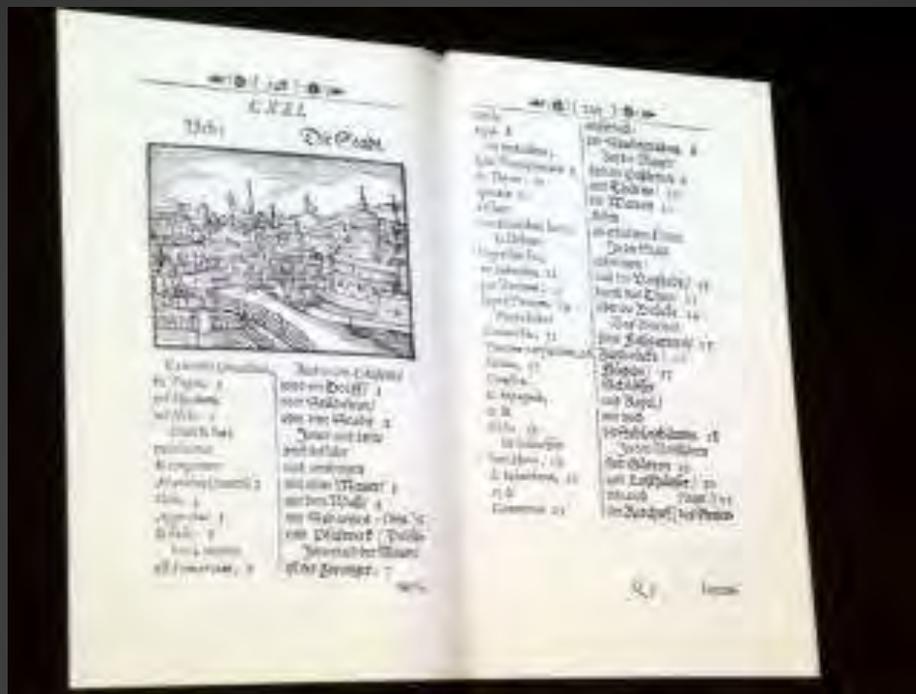
近代教育学の始祖・絵本の父
～コメニウスの『世界図絵』の意義を求めて～

- 11月17日（水）に図書館AV室にて第3回ビブリオテイクレクチャーを開催しました。



約30名弱の方々にご参加いただきました。

- 近代教育学の始祖、絵本の父と称されるコメニウスですが、今回は絵本の父であるコメニウスに焦点をあてて、レクチャーいただきました。



コメニウスの代表作の1つ、『世界図絵』をもとに、彼がこの著書をどんな思いで構想したのか、子供への教育に、視覚に訴えること即ち絵が重要な役割を果たしていると考えていたことや『世界図絵』の出版の経緯等について解説いただきました。

- また、貴島先生が所蔵されている、貴重な初版本の『世界図絵』版違いの何冊かの『世界図絵』旅行された際に入手されたコメニウスのパンフレット、絵葉書、メダル等も見せていただきました。普段、眼に触れる機会のない貴重な資料を、実際に手にとりながら、見せていただくことが出来ました。



レクチャー終了後の懇親会も、最初から最後まで楽しい雰囲気満載でした。
お忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。

第4回(2011.06.15)花田佳明教授

『国際建築時論』と『国際建築』が伝えたもの
ー日本におけるモダニズム建築の黎明期の記録ー

- 6月15日（水）図書館AV室にて第4回ビブリオテイクレクチャーを開催しました。



約20名弱の方々にご参加いただきました。

- 雑誌『国際建築時論』と『国際建築』について、雑誌の概要、建築誌的位置づけ、編集者小山正和のこと、また雑誌の表紙についても、毎年デザインを変更し、デザインの工夫が施されていたことなどをレクチャーいただきました。



- 花田先生ご所蔵の現物も見せていただきました。



レクチャー終了後の懇親会も、閉館までの短い時間でしたが、皆さん楽しんでくださいました。

お忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。

第5回(2011.06.30) 野口正孝教授

コムデギャルソンのビジュアルマガジン
『SIX』の指し示すもの

- 6月30日（木）に図書館AV室にて第5回ビブリオテイクレクチャーを開催しました。



約30名の方々にご参加いただきました。

- 1988年から1991年までの4年間にわたって発行された全8冊の顧客向けのビジュアルマガジン『Six』と、コムデギャルソンのデザイナー、川久保玲とのコラボレーションが実現した一冊『Visionaire20』について、レクチャーいただきました。



『Six』は、商品だけをカタログ的に見せるのではなく、様々な趣向が凝らされており、例えばvol.2のテーマは「Parallels」（平行な、並列の）、vol.3のテーマは「Movement」（動き）など、そのテーマに基づいて構成されています。その写真が何を表しているのかをひも解きながら見ていくのも面白いそうです。

- 『**Visionaire20**』は、中に入っていたドレスが作れるパターンを使って、実際に縫ってみたものを見せていただきながら、切り替え線の持っている動き、躍動感についてご説明いただきました。





- レクチャー終了後の懇親会も、先生を囲んでのおしゃべりに花が咲いて、楽しいひと時を過ごしました。
お忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。

第6回(2012.01.20) 寺門孝之教授 イラストレーション・ブックス ～ひめやかな歓び～

- 1月20日（金）図書館AV室にて第6回ビブリオテイク
レクチャーを開催しました。



約70名弱の方々にご参加いただき、立ち見が出るほど大盛況でした。

- 絵本編集者であり稀代のイラストレーション、絵本のコレクターであり、吉祥寺に絵本専門店とギャラリーを兼ねるトムズボックスを構える土井章史氏が出版しつづけてきたイラストレーションブックの数々や藤田嗣治、小村雪岱、太田大八、茂田井武、和田誠、真鍋博等についてもご紹介いただき、予定の時間を**30分**延長してのレクチャーとなりました。



- 当日配布した寺門先生作のレジユメも大好評でした。

⑥イラストレーション・ブックス〜ひめや

ビブリアオディグレクチャー ☆ 寺門 孝之

観

イラストレーションをささえるキーワード
 ① 都市 ② 印刷 ③ 時間 ④ 大衆(人気)(注文)

イラストレーションの活躍する場所

- ・チラシ
- ・ポスター
- ・新聞
- ・雑誌
- ・本 → 雑誌の表紙 児童書
- ・その他

イラストレーションブック

- ・注釈制作
- ・自主制作
- ・他者による制作

* 管理人物一部



土井 章史 どいあきふみ
 1957年広島生まれ。企画・編集で300冊以上の絵本制作に参加。吉祥寺の児童書専門店「トムズ・ブックス」代表。学研の月刊雑誌「おはなしパーク」の企画編集を担当。編著に「最新本一アセン」(2004年)、「おはなしパーク」(2005年)。



小村 雷伝
1897(明治27) - 1940



村上 洋介
(昭和)



長 新 木
1920 - 2000
(昭和)



奈 田 井 武
1908(明治41) - 1956



藤 田 品 治
1886(明治19) - 1968



和 川 一 夫
1903 - 1970



宇 野 重 吉
1903 - 1970



伊 坂 若 大 臣
1903(明治36) - 1970

レクチャー後の懇親会も、和気藹々と楽しい時間となりました。

お忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。また、残念ながら立ち見となってしまった皆様には、この場を借りてお詫び申し上げます。

「イラストレーション・ブックス～ひめやかな歓び」紹介資料リスト

2012.1.20

	タイトル	著者	画家	発行年	出版	メモ
1	デッサン	井上 洋介		1993	トムズボックス	
2	無言主義	井上 洋介		1999	トムズボックス	
3	乱風図異	井上 洋介		2004	トムズボックス	
4	画本 黙々譚	井上 洋介		2005	トムズボックス	
5	大階段	井上 洋介		2007	トムズボックス	
6	オレンジ・アンド・タール	飯野 和好		2000	トムズボックス	
7	ほいとランド	飯田 朋子		2006	トムズボックス	
8	中ザワヒデキの美術	石井 香絵		2008	トムズボックス	
9	とうさんの旅	伊藤 秀男		1993	トムズボックス	
10	詩片 (堀口大學訳<月下の一群>よりカラー作品集)	宇野 亜喜良		2010	トムズボックス	
11	雑誌「宝石」の挿絵 1952-1960		太田 大八	2009	トムズボックス	
12	ひかりのつぶちゃん	川上 隆子		2000	トムズボックス	
13	ボキート劇場	かわむら ぶゆみ		2010	トムズボックス	
14	ジャングルブック	河村 要助		1989	トムズボックス	
15	たえかの虹	木村 昭平		1997	トムズボックス	
16	私が一番恐ろしいのは	木村 昭平		2010	トムズボックス	
17	かざはなせんによゆらい図	木葉井 悦子		1989	トムズボックス	
18	毎日がマンガ	早乙女 民		2010	トムズボックス	
19	カット カット カット	ささめや ゆき		2010	トムズボックス	
20	小さな黒い絵	スドウビウ		2006 (2010復刊)	トムズボックス	
21	ITALIA HE ITTALIA-LIA	スドウビウ		2010	トムズボックス	
22	植物の意志	田島 征三		1998	トムズボックス	
23	庭の千草	谷川 晃一		1996	トムズボックス	
24	homosapiensaru's wisdom	谷口 広樹		2011	トムズボックス	
25	百象	田名網 敬一		1992	トムズボックス	
26	おはかまいり	田村 セツコ		2003	トムズボックス	
27	べっちゃんこのカンカラ	田村 セツコ		2003	トムズボックス	
28	ショッピングカーちゃん	田村 セツコ		2003	トムズボックス	
29	わたしはおねえちゃん	田村 セツコ		2003	トムズボックス	
30	いらっしやいませ	田村 セツコ		2003	トムズボックス	
31	ジェルソミーナ	田村 セツコ		2003	トムズボックス	
32	あなたはわたし	田村 セツコ		2009	トムズボックス	
33	カット	長 新太		2005	トムズボックス	
34	マンガ童話	長 新太		2006	トムズボックス	
35	月と10セント	長 新太		2006	トムズボックス	
36	がんまとえへの漫画	長 新太		2007	トムズボックス	
37	クレヨン・ナンセンス	長 新太		1998	トムズボックス	
38	おじさんとおばけ	長 新太		2011	トムズボックス	
39	チンブンカンプントンチンカン 1	長 新太		2008	トムズボックス	
40	チンブンカンプントンチンカン 2	長 新太		2009	トムズボックス	
41	チンブンカンプントンチンカン 3	長 新太		2009	トムズボックス	
42	チンブンカンプントンチンカン 4	長 新太		2010	トムズボックス	
43	ねことペンギンのカット集	長 新太		2009	トムズボックス	
44	Chahier	津々井 良		不明	トムズボックス	
45	八月抄記	手差 ユニツ		2008	トムズボックス	
46	TROUBLE	唐仁原 教久		1996	トムズボックス	
47	異体循環	徳野 雅仁		2006	トムズボックス	
48	illustration file コンパチ	中ザワ ヒデキ		1991	トムズボックス	
49	リスボアの小さなスケッチ帖	nakaban		2006	トムズボックス	
50	新 スアマちゃん	ハセガワ ナオコ		2002	トムズボックス	

	タイトル	著者	画家	発行年	出版	メモ
51	スアマちゃん 4	ハセガワ ナオコ		2004	トムズボックス	
52	スアマちゃん 5	ハセガワ ナオコ		2005	トムズボックス	
53	スアマちゃん 6	ハセガワ ナオコ		2008	トムズボックス	
54	かんぶつやさん	穂高 順也		2000	トムズボックス	
55	おかしやさん	穂高 順也		1998	トムズボックス	
56	きのこくん	ますだ ゆうこ		2005	トムズボックス	
57	かえるのみどりちゃん	ますだ ゆうこ		2003	トムズボックス	
58	いきものあいうえおうた	まつざわ ありさ		2009	トムズボックス	
59	田舎の日曜日	宮迫 千鶴		1992	トムズボックス	
60	ぼくの町	峰岸 達		1990	トムズボックス	
61	颱風の眼の中に居る海坊主	矢吹 申彦・猿人		1996	トムズボックス	
62	だるまん千字文	詩:矢川 澄子	知久 寿焼	1999	トムズボックス	
63	マオ猫2000年の回顧	依田 雄・山口 マオ		2000	トムズボックス	
64	平和が平和を殺す!?	山下 勇三		2000	トムズボックス	
65	アラビアン・ナイトの挿絵とその時代の仕事	和田 誠		2007	トムズボックス	
66	宮澤賢治童話の挿絵	和田 誠		2010	トムズボックス	
67	41頭の象	和田 誠		2011	トムズボックス	
68	大きな栗の木の下で	西岡兄妹		2004	トムズボックス	
69	キャラメルぼおや	編:山口 卓三	茂田井 武	1996	トムズボックス	
70	こども	編:山口 卓三	茂田井 武	1996	トムズボックス	
71	星男	編:山口 卓三	茂田井 武	1997	トムズボックス	
72	ねずみ花火	編:山口 卓三	茂田井 武	1997	トムズボックス	
73	じぶしい織日記	編:山口 卓三	茂田井 武	1998	トムズボックス	
74	かざりえ傑作選	編:山口 卓三	茂田井 武	1998	トムズボックス	
75	グリムどうわさしえ選集 1	編:山口 卓三	茂田井 武	1999	トムズボックス	
76	グリムどうわさしえ選集 2	編:山口 卓三	茂田井 武	1999	トムズボックス	
77	未明 / 南吉童話さしえ選	編:山口 卓三	茂田井 武	2000	トムズボックス	
78	フシギナコドモチ	文:茂田井 武 編:山口 卓三	茂田井 武	2000	トムズボックス	
79	ひろすけ童話さしえ選集 1	編:山口 卓三	茂田井 武	2001	トムズボックス	
80	一年生の作文集	編:山口 卓三	茂田井 武	2001	トムズボックス	
81	うそつき侍従長さしえ傑作選	編:山口 卓三	茂田井 武	2002	トムズボックス	
82	一休さん・さしえ集	編:山口 卓三	茂田井 武	2003	トムズボックス	
83	ジャータカ物語・カッパのクーさしえ集	編:山口 卓三	茂田井 武	2005	トムズボックス	
84	みどり色の時計・日本児童文学選さしえ集	編:山口 卓三	茂田井 武	2006	トムズボックス	
85	バリーノコドモ	茂田井 武		2008	トムズボックス	
86	ベコ・ボンボン	初山 滋		2004	トムズボックス	
87	未明童話集挿絵集		初山 滋	2007	トムズボックス	
88	Silhouette	たむら しげる		2011	トムズボックス	
89	Line Dream	たむら しげる		2011	トムズボックス	
90	Legendes japonaises 日本昔噺		藤田 嗣治	c1922	L'Abeille D'or	
91	電車画府:井上洋介画集	井上洋介		1988	PARCO出版局	
92	東君平の世界:かぎりない やさしさ いつまでも	東 君平		1990	サンリオ	
93	マジカルランド:杉浦範茂画集	杉浦 範茂		1981	サンリオ	
94	Klin klan (くりんくらん)	言葉:生田万	伊藤桂司	1989	三起商行	
95	谷中安規カット集 改造	編:大野 隆司	谷中 安規	1985	大野 隆司	
96	谷中安規カット集 第2集	編:大野 隆司	谷中 安規	1986	大野 隆司	
97	谷中安規カット集 別冊	編:大野 隆司	谷中 安規	1986	大野 隆司	
98	谷中安規カット集 第3集	編:大野 隆司	谷中 安規	1987	大野 隆司	
99	谷中安規カット集 第4号	編:大野 隆司	谷中 安規	1988	大野 隆司	
100	谷中安規カット集 第6集	編:大野 隆司	谷中 安規	1988	大野 隆司	
101	谷中安規カット集 第7集	編:大野 隆司	谷中 安規	1988	大野 隆司	
102	谷中安規カット集 第9号	編:大野 隆司	谷中 安規	1990	大野 隆司	

	タイトル	著者	画家	発行年	出版	メモ
103	谷中安規展		谷中 安規	1985	美術研究藝林	
104	美しい日々：片山健画集		片山健	1969	幻燈社	
105	乙女風景：井上洋介版画集		井上洋介	1978	村松書館	
106	金子国義エロスの劇場	編：高橋 睦郎		1984	小学館	
107	薔薇の悪魔：世界でいちばんコワイ話	竹内 健	挿画：宇野 亜喜良	1968	新書館	
108	愛さないの愛せないの	寺山 修司	挿画：宇野 亜喜良	1968	新書館	
109	愛する歌：詩集	やなせたかし		1969	山梨シルクセンター 出版部	
110	裸の王様・イワンの馬鹿：絵本ミュージカル	寺山修司	表紙・イラストレーショ ン：伊坂 芳太良	1968	新書館	
111	女は便利な動物		久里洋二	1965	技術出版	
112	小村雪岱画譜	編：山本武夫	小村 雪岱	1956	龍星閣	
113	気まぐれロボット	作：星新一	和田誠	1966	理論社	
114	井上洋介の絵本水滸伝		井上洋介	1981	講談社	
115	井上洋介画集		井上洋介	1971	学芸書林	
116	小村雪岱	編：雪岱会	小村雪岱	1942	高見澤木版社	
117	瀬戸照の静物		瀬戸照	2009	フレーベル館	
118	ヘンなえほん		井上洋介	1991	ほるぷ出版	
119	ぼくの絵日記		矢吹 申彦	1979	エイブル・ミュー ジック	
120	谷内六郎幻想記	総編集：横尾忠則		不明	駉々堂	
121	茂田井武画集	編：日本童画会	茂田井 武	1960	茂田井武画集刊行 会	
122	情熱のベンギんごはん	原作など：糸井 重里	作画など：湯村 輝彦	1980	情報センター出版 局	
123	EXTRAORDINARY LITTLE DOG		原田 治	1981	PARCO出版	
124	安西水丸ピクチャー漫画館		安西 水丸	1977	プロンズ社	
125	PEOPLE：和田誠肖像画集		和田 誠	1973	美術出版社	
126	矢吹申彦風景図鑑		矢吹 申彦	1979	美術出版社	
127	植草甚一主義		植草 甚一	1978	美術出版社	
128	横尾忠則画帖		横尾 忠則	1981	美術出版社	
129	繪本千一夜物語	寺山 修司	宇野 亜喜良	1968	天声出版	
130	動物園 1		真鍋博	1959	ユリイカ	
131	地にはピース		和田誠	1965	ライト・パブリシティ	
132	Lunatico：宇野亜喜良1987--1990		宇野亜喜良	1990	新書館	
133	伊坂芳太良の世界		伊坂芳太良	1974	立風書房	
134	タウンゼント館（みゆきイラストシリーズ；1）	日暮真三	伊坂芳太良	1969	みゆき書房	
135	12人のグラフィックデザイナー = Twelve persons in graphic design today 第1集 (宇野亜喜良、永井一正、福田繁雄、細谷巖)		宇野亜喜良 永井一正 福田繁雄 細谷巖	1971 (5版)	美術出版社	
136	12人のグラフィックデザイナー = Twelve persons in graphic design today 第2集 (粟津潔、勝井三雄、田中一光、和田誠)		粟津潔 勝井三雄 田中一光 和田誠	1973 (4版)	美術出版社	
137	12人のグラフィックデザイナー = Twelve persons in graphic design today 第3集 (伊坂芳太良、片山利弘、木村恒久、横山忠則)		伊坂芳太良 片山利弘 木村恒久 横山忠則	1971 (3版)	美術出版社	
138	イラストレーションとデザイン (粟津潔：作品集；第1巻)		粟津潔	1978	講談社	
139	宇野亜喜良マスカレード		宇野亜喜良	1982	美術出版社	
140	真鍋博Original1975		真鍋博	1975	講談社	
141	山太郎	川路重之	和田誠	1963	行政印刷(印刷)	
142	しりとり	谷川俊太郎	和田誠	1965	降旗美術印刷(印 刷)	

第7回(2012.07.20) 宮本隆司教授・赤崎正一教授

杉浦康平のブックデザイン

- 7月20日(金) 図書館AV室にて第7回ビブリオテイクレクチャーを開催しました。



約90名近くの方々にご参加いただきました。客席には杉浦康平先生ご本人のお姿も！

- 作成時のエピソードなど、興味深く貴重なお話をたくさんご披露くださいました。



- 『地図』は限定**800部**という貴重な写真集で、レクチャー講師の宮本先生も直に手にとられたのは初めてとのことでした。内容は、原爆ドームの内側、死の沈黙、戦争の残骸、戦争の痕跡、そういうものがずっとつながっている非常に重苦しい写真です。『地図』というタイトルは川田喜久治氏が考えたもので、内容から感じとれる痛みを伴った強烈なヒリヒリしたイメージを踏み台にして、我々がこれからどこに向かって行くべきか、そういう地図を組み立ててほしい、という願いをこめてつけられたものだそうです。

- 『印』は、フランスの思想家ロジェ・カイヨワが森田子龍の書に触発されて記したもので、こんにやく版という技術を使った印刷方法で作られています。印刷というよりは版画に近いものだそうです。
- 『井上有一絶筆行』は、井上有一氏が最後に残したい言葉を記したものです。大きな筆を使い、紙の上を自在に走り回って書を書かれる姿は、音楽を奏でているように見えるそうです。
- 『多留保判男色大鑑』は、井原西鶴自身の少年愛論が述べられており、男色文化は江戸の文化では、特殊なことではなく、むしろ普通のことです。西鶴版と現代語訳版の両方が入っています。清刷りという、活版印刷とオフセット印刷の合体物みたいなもので、活版印刷したきれいなゲラを直接版下として使うため、オフセット印刷でありながら、文字は活版の特徴を強く残しているそうです。

- 次から次へと興味深いお話しが出てきて、あっという間に終了時間となってしまいました。レクチャー終了後は、資料を手にとって見ることも出来ましたので、皆さん、とても熱心に見ておられました。



足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。

長時間の立ち見となった方々には、この場を借りてお詫び申し上げます。

第8回(2013.11.29) 川北健雄教授 メタボリストたちが描いた未来

- 11月29日（金）に図書館AV室にて第8回ビブリオテイク
レクチャーを開催しました。



約25名の方々にご参加いただきました。

- メタボリズムとは、生物学用語で新陳代謝という意味で、「デザインや技術は人の生命力が表すかたち」と考え、1960年代の建築家たちがそれをスローガンにしておこした建築運動のことで、国際的にも大きな影響を与えました。2011年9月から2012年1月に、メタボリズムを回顧する展覧会が東京の森美術館で開催され、その時に発掘された昔の貴重な映像や展覧会の様子を記録した映像を見ながら、メタボリストの立役者達や彼らが設計した代表的な建築作品について川北先生にレクチャーしていただきました。



レクチャー終了後はAV室から図書館会議室に場所を移して懇親会を開催しました。川北先生を囲んでのおしゃべりに花が咲いて、楽しいひと時となりました。

お忙しい中、足をお運びくださった皆様、ありがとうございました。